

婦人と子ども



子だから

東 牧 羊

古來の口碑傳説や歴史などに於て、私共は母親の子に對する至情が、最も美しく發露せる機會を屢々見ることがございます。如何なる暴惡無殘の人といつても、我子に對しては、大抵濃な愛情を表はすの實に、人間の底に奥深く潜んで居る靈性を、天が人の子に依りてこの天地の間に發露せしむるものでありませう。我利我慾嫉妬偏見虛榮言諦あらゆる罪惡の暗黒界の中に於て、一道の人間らしき光明のよく之を照らすものは、實に親の子に對する愛情の發露であります。

私は常に感じます。自分は社會に立ちて何等人から尊敬せらるゝ程の身分もなければ名譽もありませぬ、羨まれる程の財産もなければ學識もありませぬ。たゞ其日其日の職分に追はれて居るのみで、自分の様なものは、存在して居ようが居まいが、一向社會に取つては關係のない言は在る甲斐のないものでありませんが、然も只だ一人、満腔の敬愛を捧げて、自分を何ものにも代へ難い父として信頼するものがあつた。實に子供となつては、自分の様な腑甲斐ないものすら、天地にたゞ一人の父と頼りすがるかと思ふと、吾々凡夫の身では、如何で、子供の爲めに、時々失望落膽に迫らるゝ、自分の精神に鞭うちて奮勵することにもなるのであります。

古來、子供がなくなつて泣く人はないが、子を持つて泣く人は多いといふこともあり、随分子故に暗駝に迷うて苦む人もありますが、通例からいへば人は子供を持つて始めて安心することが出来るのであります、子供のないうちでは、随分冒險もし、輕擧もやつて見るが、さて子供が出来ると自と沈着いてくるのは極めて自然であらうと思はれます。

子供は親に安心を與へる許りではありませぬ。其他に子供から受くる所の賜は、實に多いと思はれます。吾々は子供を持つて始めて親の義務といふことを、十分解して之を實行することが出来ます。育てた親の恩も、我子を持つて始めて十分に理解することが出来ませう。自分を犠牲にするといふ美はしい至情を最も多く顯はす機會を與へるのも子供であります。我利我利亡者の様な人も、子供を持つて

生れ代つた程風情深くなるのも、實に子供の賜であります。夫婦の争ひ、時々には子供から起ることもありますが、然し夫婦の結合を一層強固にするものは子供であります。實に統計上から見ましても、子供を持つたものに犯罪者が少いといふことは事實であります。

かく考へ来りますれば、古人が子實といつたことも、まことに理由のあること、思はれます。室の美ならんよりも子等の嬉笑なるかなといふ言葉もありませんが、吾々は、子供を持つて、たゞ玩具の様に可愛がる許りではなく、子供から學び得る凡べての賜に留意して、かくの如き子實を得たることを深く感謝すると同時に、不幸にしてこれを有せざる人々に向つて、深き同情を表せねばならぬと思ひます。

忙中閑語

天

紅

▲高き學校を卒業したりとて、高き教育を受けたりとはいふべからず、高き學問と高き教育とは自ら異なり、學問とは、教育の方便の一なり、學問を授くる學校、必らずしも教育を施す學校と言ふを得ず、今の婦人にして、高き學校に入りて高き學問を受けたるもの、漸く多からんとす、然して、實際の社交上に於て、往々非難を受くる所以のものは、要するに、學問のみを修めて、教育を施されざるに由る。

▲某侯爵夫人、曾て、其親戚に妻を娶りやらんとする時、一切學校出の娘を拒絶せり、其理由に曰く、